

茨城県きぬ看護専門学校における学校評価

平成 27 年 6 月

本校では教育の質保証・質向上に向けて、学校評価を実施するための準備を進め、平成 26 年 6 月に「学校評価検討委員会」を設立した。委員会の構成員は、学校長、副学校長、教務主任、副教務主任、実習調整者、事務長、事務係長とし、その他学校長が必要と認めた者（教員等）が、適宜参加するとした。平成 26 年 6 月から平成 27 年 6 月まで、計 8 回の委員会を開催し、自己点検自己評価を行なった。ここにその結果を報告する。

評価内容は、専修学校における学校評価ガイドラインに基づき I 教育理念・教育目的・人材育成像、II 学校運営、III 教育活動、IV 学修成果、V 学生支援、VI 教育環境、VII 学生の受け入れ募集、VIII 財務、IX 法令等の遵守、X 社会貢献・地域貢献とした。小項目にして計 60 項目を点検・評価した。それぞれに対して「考え方・目的・方針」「現状と具体的取り組み」「課題と解決方法」「参考資料」を確認しながら、4（適切）、3（ほぼ適切）、2（やや不適切）、1（不適切）で評価した。自己点検自己評価の過程で、組織運営や日常の教育活動を客観視し、課題と解決策だけでなく、自校の良さ強みも明らかにすることが出来た。

今回は、自己評価の総合評価(概要)を公表する。

主な課題は

- 1、自己評価の公開
- 2、学習成果の評価と公開
- 3、学校関係者(在校生、卒業生、保護者、関係組織等)評価
- 4、教育環境の老朽化
- 5、資格取得率 等である。

主な解決策は(平成 27 年度～平成 28 年度)

- 1、ホームページに学校評価について掲載する
- 2、授業アンケート評価の調査報告を行う
- 3、学校関係者との話し合いの機会を設ける
- 4、老朽化が著しい箇所の改修を進める
- 5、国家試験対策を強化する(104 回は新卒 97%であった) 等である。

本校の良さ強みは、

- 1、教育理念・育成人材像等を明確に定めている
- 2、家庭的規模で面倒見の良い組織風土がある
- 3、実習施設との連携がしっかりしている
- 4、教育課程にボランティア活動を組み込み、福祉施設と連携しながら活動を支援している
- 5、近隣高校・近隣施設との連携による教育活動を行っている 等である。

課題の解決と同様、これら良さ強みの維持向上も図って行く。

茨城県きぬ看護専門学校における学校評価

平成 27～28 年度評価（一部概要）

平成 29 年 2 月

1、自己点検・自己評価の公開

平成 27 年 6 月からホームページで公開している。平成 29 年 2 月に更新した。

2、学習成果の評価と公開

授業アンケートの調査は中断したが、平成 29 年度は実施する。

3、学校関係者（在校生・卒業生・保護者・組織関係者等）の評価

在校生・卒業生の意見は吸い上げ同窓会長とも連携している。組織的取り組みには至らず。

一部の保護者とは学生の問題解決の目的で密に話し合っているが、大半の保護者とは入学時の懇談会以降、話を聞く機会が少ない。定期的に文書で成績の報告をしているので、今後はこの機会を活かす。

外部講師とは、学校・学生の情報を提供しながら意見交換をしている。

隣接実習施設の組織連携会議(仮称 6 部署合同会議)に参加し、意見交換をしている。その他の実習施設とは臨床指導者会議等の機会を活かしていく。

4、教育環境の整備

老朽化が問題である。平成 27 年 8 月にトイレをリフォームしたが被災。その後 1 階全ての修繕を行った。今後も教材備品等の補充の他、校舎のリフォームを段階的に計画する。

5、資格取得率

新卒看護師国家試験合格率は、平成 27 年(104 回)は 97%、平成 28 年(105 回)は 100%と好成績だった。

6、その他

面倒見の良い教育風土を継続している。教員は学生をよく把握し、必要時は専門家の意見を聞きながら関わっている。退学者は学年に 1～2 名と少ない。

平成 27 年夏には「潜在看護師対象の地域就業支援研修」を開催した。今後、筑波大学と連携し子供対象の事業に協力する計画をしている。

教員が、近隣高等学校で「性教育」、看護協会で「在宅看護」の講演をした。

茨城県青少年自然の家運営委員も行っている。

学生は、高齢者福祉施設などでボランティア活動を行った。また、病院と通所リハビリテーションでクリスマス会も開催した。このような地域貢献活動は今後も継続する。

以上。